社会貢献活動
地域とともに

馬術部主催
伊勢原こども馬フェス初開催

病気持つ子どもたちが馬との触れ合い楽しむ

馬術部員のサポートを受け、乗馬を楽しむ親子

病気を持つ子どもと家族に、馬や自然との触れ合いを楽しんでもらおうと、体育会馬術部が11月23日「伊勢原こども馬フェス2023」を開催した。秋晴れの伊勢原総合グラウンドの馬場を訪れた約10組の親子が、乗馬や餌やりを体験した。

イベントは、本学教職員のほか、医療関係者や団体、ボランティアの協力で初めて開催した。

大きな馬を前に、最初はこわごわと触れるだけだった子どもたちだが、馬術部員のサポートで馬に乗ると満面の笑みを浮かべていた。

昼食のバーベキューを挟み、午後のホースショーでは全国大会で好成績を収める馬術部員がダイナミックな演技を披露。間近で見た子どもたちからは大きな歓声があがった。

西山慶太監督は「部としても初めての取り組みで、部員にとって、重い病気を持つ子どもや地域との交流、引退馬の利活用など、馬術競技以外のことにも目を向けるきっかけになれば」と語った。

4年次の女子部員は、「ホースセラピーに関心があったので良い経験になった。子どもたちと触れ合えたのも楽しかった」と笑顔で振り返った。

実行委員の一人、国立成育医療研究センターの余谷暢之さんは「病気を抱えて生活する子どもたちに、普段なかなか体験できない馬との触れ合いを、ご家族と一緒に五感で味わい、楽しんでほしい」と企画趣旨を説明。一般社団法人病院マーケティングサミットJAPAN代表理事で医師の竹田陽介さんは「このイベントは、多様性を受け入れそれぞれが能力を発揮するダイバーシティ・インクルージョンの観点からも意義深い」と話した。

同じく実行委員の齋藤実文学部教授は「医療関係者、ボランティア、学生などが協力し合い、これまでにない形の地域貢献を実現できた」と手応えを語った。

餌やりを体験する参加者

イベント終了後、みんな笑顔で

渋沢杯ディベートリーグ
経済・永江ゼミが準優勝

自分たちの主張を堂々とスピーチした

経済学部の永江雅和ゼミ3年次生17人が、10月8日に生田キャンパスで開かれた大学対抗のディベート大会「渋沢栄一杯経済史・経営史ディベートリーグ」で準優勝を果たした。

今年は永江ゼミのほか、慶應義塾大学、関西学院大学、高崎経済大学、日本大学、北星学園大学で経済史や経営史を学ぶ五つのゼミが参加。「量的質的金融緩和は日本経済にとってプラスであったか」をテーマに熱い議論を交わした。

各大学が肯定と否定の2チームを編成し、1試合ずつ行う。永江ゼミは1勝1分けで準優勝に輝いた。また、否定チームのスピーチを担当した鈴木孝太郎さんが、大会MVPにあたる「最優秀ディベーター賞」に選ばれた。鈴木さんは「自分たちの土俵に相手を引き込む、狙い通りの試合運びができた。個人賞は予想外で驚いたが、とてもうれしい」と喜んだ。

永江ゼミでは、知識をアウトプットする力を養うため、競技ディベートに取り組んでいる。夏には他大学との練習試合で技術を磨き、集大成として同大会に毎年出場している。

競技ディベートは、相手を論破することではなく、第三者である審判をいかに説得するかで勝敗を争う。客観的で論理的な主張が必要で、花澤駿佑さんは「自分の考えを理解してもらうためのコミュニケーション力などが身につく」と話す。木内啓登さんは「大会はチーム戦。メンバー一人一人の強みを生かして戦略を立てた」と振り返る。

永江教授は「主体性を持って取り組み、大きな成果を収めた。たくましく成長してくれた」とゼミ生たちをねぎらった。

永江教授（後列左）とゼミ生

日本心理学会「学部生・高校生プレゼンバトル」
人間科学部4年次 大水さん、小林さん ベストプレゼンター

日本心理学会第87回大会の若手の会企画「学部生・高校生プレゼンバトル」で、人間科学部心理学科4年次の大水拓海さんと小林美月さんがそれぞれベストプレゼンターに選ばれた。この企画では、学部生・高校生が心理学に関係するテーマでプレゼンテーション動画を作成し、若手の会によってベストプレゼンターが選出される。

大水さんは「複雑系としてのうつ病の数理シミュレーション」について発表し、ベストプレゼンター（第一席）に選出された。大水さんは、うつ症状のネットワークの時間的挙動を検証するシミュレーションに対して治療コンポーネントを導入することで、有効な心理的介入法を検討した。本研究は、ALIFE2023での発表を基に、治療コンポーネントが作用する症状による違いを検討している。大水さんは国里愛彦教授の計算論的臨床心理学研究室に所属し、計算論的アプローチについて学び、本研究に取り組んできた。

小林さんは「Latent Semantic Scaling（LSS）を用いて付与した感情極性値による不満度の予測」について発表し、第二席に選出された。極性辞書を自動生成する自然言語処理技術を応用して、文章に含まれる不満感情の強度を予測する研究を行っている。小林さんは小杉考司教授の心理統計学研究室に所属。2023年度は小杉教授のサバティカル（研究専念期間）に伴い、野村圭史兼任講師（東京大学）の指導の下で、本研究に取り組んできた。

ドラ1・西舘昂汰選手が高山伊勢原市長に報告

プロ野球ドラフト会議で東京ヤクルトスワローズから1位指名を受けた野球部の西舘昂汰選手（経済4）が11月20日、齋藤正直監督とともに神奈川県伊勢原市役所を訪問し、高山松太郎市長に報告した。

伊勢原市には本学の野球場や体育寮があり、西舘選手が4年間の思い出や支援への感謝を伝えると、高山市長は「周囲に惑わされず、ケガのないようにしてほしい。活躍を期待しています」と激励した。

西舘選手は、12月8日には神田キャンパスを訪れ、松木健一理事長に謝意を伝えた。

西舘選手（中央）と高山市長（右）。市のマスコットキャラクター・クルリンも祝福